

ネットワーク研究会開催 <ファイナルラウンド> H26.3.8(sat) 鹿児島大学

今年度で3回目の開催となったファイナルラウンドですが、今年度は、鹿児島大学で開催されました。武隈学部長の「竹之下久蔵先生を輩出したこの地で」というご挨拶から、全国から学ぶ、ポスターセッション、行政の取り組み、シンポジウム、タブレット・書籍コーナーなど、計120名の参加を頂き、多様な情報交換の機会となりました。

1 第1部「全国・世界から学ぶ～学校体育の充実に向けて～」**① 「北海道・東北の実践 2013」北海道・東北ネットワーク幹事 高橋修一先生**

高橋先生から、北海道どさん子ラウンド、山形サクランボラウンド、東京江戸前ラウンド、仙台牛タンラウンド、秋田きりたんぼラウンド、岩手わんこそばラウンドの様子を報告していただきました。

**② 「ドイツのスポーツ教育事情」
鹿児島大学 廣瀬 勝弘先生**

広瀬先生からは、在外留学されたドイツのスポーツ教育の現在として、2歳から11歳迄の子どもたちを対象として10000人以上の子どもたちが参加する大プロジェクトとなっているハイデンプルグ大学のバールシュレ（地域スポーツクラブ）の様子等をお伝えいただきました。

「Ballschule Heidelberg」の様子①:

「Baby Ballschule」(2～3歳) : 左上
「Mini Ballschule」(4～5歳) : 右上
「Ballschule」(6～11歳) : 左下

・指導者は、学生
・11歳以降は、地域のスポーツクラブとの連携有り
・多様な運営経験の継承＝目的

**③ 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果からわかったこと」
国立教育政策研究所 フェロー末永祐介**

末永さんからは、今年度の全国体力・運動能力調査の結果から見える研究者の視点からの情報提供を頂き、授業づくりの重要性、「体育が好き」という意識を高めることの視点の大切さを感じることができました。

④ 「くまモン等を活用した『くまもとの元気づくり』の取組」熊本県緒方指導主事**⑤ 長崎県部活動指導の充実 トレーナー派遣事業と部活動指導の手引き**

九州の特徴的な取り組みとして、熊本の人気キャラクター「くまモン」をテーマとした、各学校で準備運動に取り入れている実践例、長崎では、中学校、高等学校部活動の科学的サポートとして、長崎県のスポーツトレーナー協会との連携による巡回指導や一年間を通じた学校支援の取り組みについて情報提供を頂きました。

2. 授業づくり最前線「ポスターセッション」

小学校5題、中学校3題、高等学校2題、大学2題、学生3題の合計15題の発表を頂きました。

発表いただいた宮崎市立清武小学校 村中田博さん、菊池市立菊池北小学校 佐藤政臣さん、鹿児島市立伊敷台小学校 井出 拓一・前田 大吾さん、日置市立妙円寺小学校 山川 素夫さん、新潟市立中野山小学校 長谷川 智さん、筑紫野市立筑紫野中学校



吉倉圭亮さん、阿久根市立大川中学校 長井忠友さん、山鹿市立菊鹿中学校 北本憲仁さん、福岡県体育研究所 内田ひろみさん、長野県立長野高等学校 内山みのりさん、鹿屋体育大学学生 高橋 諒さん、古田 大輔さん、熊山 好生さん、鹿屋体育大学 梶 ちか子さん、岩手大学 清水 将さんご発表お疲れ様でした。熱心な質疑応答のなかに、学校現場の今を知ることができました。

3. 「九州のスポーツ行政施策 2013」

4つの発表を通して、体力向上の方策について情報を共有しました。①「体力アップ福岡モデル」福岡県体育研究所 物部 倫明さんからは、福岡の体育的学力の研究を継続した体力向上の中間報告を、②「体育専科教員の活用状況と体力向上」大分県教育委員会 阿部 尚史さんからは、大分が推進する体育専科の活用による体力向上の伸び率が全国上位となっていることを、③「体力向上と行政の取り組み」佐賀県 永淵 武さんからは、運動習慣の二極化の解消に向けての取り組みの重要性を、④「広島県での体力向上の取組～



change!! やってみたいくなる取組への意識改革～」広島県教育委員会 清田 美紀さんからは、先生方の意識を変えることの大切さ、発達の段階に応じた対策の必要性をお話頂きました。

体力向上というイメージは、「鍛える」感が先立ちますが、各発表の中で、共通に大切にされているのは、運動習慣が定着していない子どもたちの意欲の向上や一過性にならない方策、結果として数値の向上につながるための体育授業の充実や、学校教育活動の工夫、外部指導者の活用を検討し工夫されている様子でした。

第2部「保健体育授業づくりシンポジウム」 よい授業を考える

パネリスト

石川 泰成氏 国立教育政策研究所
大友 智 氏 立命館大学スポーツ健康科学部
下野 六太氏 福岡県春日市立春日南中学校

コーディネーター

佐藤 豊 鹿屋体育大学



「よい授業とは何か」難しいテーマに、シンポジストの皆さんからは、それぞれの視点からアプローチをしていただきました。まず、石川さんからは、国立教育政策研究所指定校での「思考・判断」の育成とその評価についての事例を参考に、本時の指導内容を明確化した授業の重要性についてご提案を頂きました。同時に、全国体力・運動能力、生活習慣等調査の分析からみる「自己有能感」を高めるアプローチの効果についても触れていただきました。

次に、大友さんからは、みんなのスポーツ、社会の要請に応える授業づくり、時代の要請に応える授業づくりを通して体育の価値を上げていくことが大切ではないかのご提案を頂きました。特に、学習指導要領の例示に対する意識は、多くの先生がより高いイメージを指導しようとしているとの指摘は、発達の段階を考えた指導によって質の保証が求められる今の授業づくりでは重要な指摘だと思いました。

最後に、下野さんからは、体育の技能の向上が目的ではなく、技能を身につけさせるプロセスや学校教育活動全体を通して「ひと」をつくるのが体育の授業の使命ではないかというご意見や、ピフォア・アフタービデオを通した生徒にできることの実感を持たせる工夫等実践者ならではの視点から「よい授業」についてご提案を頂きました。

まとめ

3回目を迎えた九州体育・保健体育ネットワークのファイナルラウンドですが、九州内外の大学、教育委員会、研究会の連携が深まり、一步一步深化を遂げているように思います。

なにより、校種、職種、アプローチ方などの多様性が受容される中で、自由に体育の授業の充実や学校体育を検討する雰囲気が熟成されてきているように思います。「スポーツは違いを超えて人々を結びつける」出会いを大切にしたいと思います。元気が共有できる会であることを願って。(文責 鹿屋体育大学 佐藤)

